



地域連携だより

Face to Face

第 13 号



介護支援専門員と病院連携室との 意見交換会を開催しました



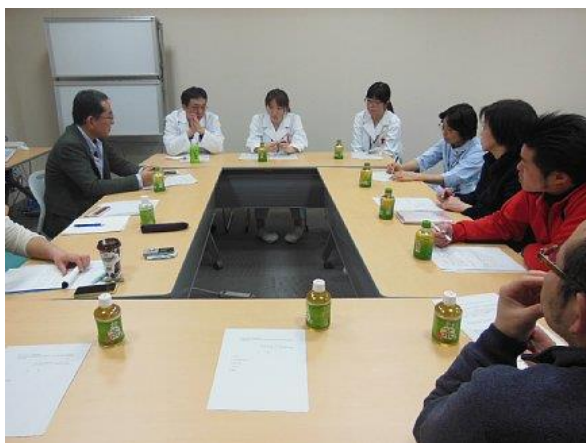
2月24日、岩手県立釜石病院多目的会議室において、岩手県立釜石病院地域医療福祉連携室と釜石広域介護支援専門員連絡協議会との意見交換会が行われました。

この会は、これまで行ってきたチームかまいしと一職種が話し合う「一次連携」の結果を元に開かれたもので、多職種連携を進めるうえで連携ニーズが高かった、急性期病院の連携室とケアマネジャーが直接話し合い、意見交換することで、互いの職種に対する理解を深め、更なる連携体制の強化へ繋げることを目的としています。

これまでの一次連携では、病院と介護職との間に壁を感じてしまうことや、退院時や入院時の連携に関する事などが連携課題としてあげられ、話し合いの場を設けてほしいという意見もありました。

晴れて開催された今回の意見交換会は、病院連携室から4名、ケアマネジャー3名、チームかまいしから3名が参加。テーマを「地域のルールを知り、お互いの業務を理解することで、スムーズな退院支援と退院後の安定した療養生活を実現するために」として、お互いの職種の業務内容の紹介から始まり、それぞれの職種がどんなことで困っているのか、その課題は連携によって解決できるものか、スムーズな連携を妨げる課題は何かなど、ざっくばらんに意見を出し合いました。

協議の中で、医療職・介護職とも人手不足である釜石医療圏の現状が浮き彫りになり、ケアマネジャーは利用者本人と家族との意見の調整に苦慮していること、病院も介護従事者の不足による地域の受け入れが不十分なため退院調整に苦慮しているうえ、緊急の業務に時間を取られることがわかりました。それらの課題解決のためには両者の協力が不可欠であり、家族と関係職種は、患者の退院までの流れや治療のゴールの認識を共有することが大事だという意見がありました。またチームかまいしアドバイザーの寺田医師からは、ケアカンファレンス等はたとえば15分など時間を決めて行うことや、病院を訪ねる際には必ずアポイントメントを取るなど、負担軽減のための具体的なルール作りが提案されました。チームかまいしでは、今後も多職種の話し合いの場を継続して提供していきます。



平成26年度 連携のあゆみ

チームかまいしでは発足以来、医療・介護職の連携や、職種間の連携等を支援・推進してきました。
年度末を迎え、ここに今年度の多職種連携に関する活動内容を報告します。

歯科連携

✦ 医科歯科連携に関する打ち合わせ会（全1回）

釜石歯科医師会でまとめた訪問歯科診療に関する医科歯科連携フロー（右図）に基づき意見交換と調整を行った。この打ち合わせ会を経て、一定のルールに基づいた実際の患者紹介が開始されることとなった。

✦ 医科歯科同行連携訪問研修（全2回）

医師と歯科医師による市内在宅患者の同行訪問研修。今年度は歯科福成医院、鈴木歯科医院より歯科医師が参加した。



薬科連携

✦ 医科薬科連携に関する打ち合わせ会（全1回）

7月開催。前年度に続き医科薬科同行訪問を行うほか、病院薬剤師と調剤薬局との薬薬連携や、多職種共催の研修会、「コミュニティスペースとしての薬局」に関する協議など、今後の活動内容に関する意見が出された。

✦ 医科薬科同行連携訪問研修（全4回）

医師と薬剤師による市内在宅患者の同行訪問研修。今年度は中田薬局小佐野店、ハロー薬局、おおぞら薬局、つくし薬局釜石中妻店より薬剤師が参加した。

✦ 第7回日本在宅薬学会学術大会への多職種での参加（7月20～21日）

チームかまいしアドバイザーの寺田医師と釜石薬剤師会の中田理事が学会に参加した。連携担当と専門職種とが共同で参加することで、問題に対する意識の共有や多面的な視点の獲得が可能となった。

✦ 釜石薬剤師会主催 多職種連携研修会の開催（3月5日）

帝京平成大学薬学部の井手口直子教授を講師に招き、釜石薬剤師会主催・チームかまいし共催で研修会を開催した。約90名の医療・介護関係多職種に対し、服薬の視点からスムーズな連携の構築について考える機会を提供した。



リハ士連携

✦ リハ士連携に関する打ち合わせ会（全1回）

通算2回目となった今回の協議では、職種内における連携や地域包括ケアの概念・体制の周知などの必要性、ケアマネジャーなど多職種との連携の必要性などがあげられた。次年度も継続してこれらの課題に取り組んでいく。



ケアマネジャー連携

✦ ケアマネジャー連携に関する打ち合わせ会（全1回）

10月開催。これまでの一次連携でケアマネジャーと病院連携室のニーズがお互いに高いことが判明したため、両者の連携を進めていくこととなった。

✦ 釜石広域介護支援専門員連絡協議会主催

在宅医療・多職種連携勉強会の開催（10月12日）

「地域包括ケアにおける医療と介護の連携について」をテーマに、(株)ケアーズ白十字訪問看護ステーションの秋山正子統括所長を講師に招いた勉強会がチームかまいしの共催で開催された。



秋山正子さんの講演

✦ 岩手県立釜石病院 地域医療福祉連携室との協議（2月24日）

⇒ P1の記事をご覧ください。

訪問看護連携

✦ 訪問看護連携に関する打ち合わせ会（全1回）

職種が抱える問題や連携に関する課題として、服薬管理、褥瘡について、利用者の金銭問題、ファーストコール、訪問看護リハビリでの24時間加算についてなどの意見が出された。これらの課題を職種内で共有し、協議を深めるとともに、連携のなかで解決できる問題については継続して協議していく。



打ち合わせ会

病院連携室連携

✦ 病院連携室連携に関する打ち合わせ会（全2回）

8月8日に岩手県立釜石病院地域医療福祉連携室と、20日に釜石のぞみ病院地域医療連携センターと連携に関する課題等について協議した。院内連携や病院経営に関することなどのほか、退院調整やケアマネジャーとの連携に関することについて意見があったことから、ケアマネジャーとの連携を進めることとなった。

✦ 釜石広域介護支援専門員連絡協議会との協議（2月24日）

⇒ P1の記事をご覧ください。



打ち合わせ会（のぞみ病院）

OKはまゆりネットの活用について

かまいし・おおつち医療情報ネットワーク（通称・OKはまゆりネット）は、実際的な多職種連携ツールとして活用されています。今後、薬局や介護施設など利用機関を広げるにあたり、今年度は「どの職種がどのような情報を必要としているか」を知るワークショップを行いました。（チームかまいしホームページ「事業案内・資料」で結果を確認できます。）

この結果を元に協議を深め、すべての関係多職種が便利に利用でき、また患者のためになるシステムの構築を目指していきます。



看護師募集セミナーを開催

1月23日、「看護の力で街づくり」看護師募集セミナーが開催されました。これは被災地である釜石市で働いてみたいという意欲を持つ、主に県外在住の看護師を対象に釜石市が行っている事業で、昨年度は2人の看護師が釜石市内の病院に就職しました。

今回のセミナーには看護師1名が参加し、市内3病院を見学しました。事務局や看護師長らの説明に参加者は真剣に耳を傾けていました。

ところで実際に釜石市での暮らしや釜石医療圏について、外部からはどのように見えているのでしょうか。昨年度セミナーを受けて市内の病院に就職した看護師の金川貴子さんにお話を伺いました。



説明会の様子



金川さん

◆ ご出身はどちらですか？

兵庫県姫路市の出身です。以前は東京都の循環器救急病院に勤めていました。

◆ なぜ釜石に来ようと思われたのですか。

そろそろ東京から動こうと思っているときに、同僚からセミナーに誘われ参加しました。釜石市には2011年7月にボランティアで来たことがありまして、同じ働くなら、より役に立てる所で働きたいと思いましたので、参りました。

◆ 実際に住んでみて、釜石の暮らしはいかがですか。

住みやすい街だと思います。当初は時間を持て余すこともありましたが、徐々に知り合いも増え、ボランティア・イベントの手伝いや野菜作りなど釜石でしかできないことを楽しんでいます。

◆ お仕事について伺います。今はどちらの病院で、どのような業務をされていますか。

のぞみ病院の一般病棟で勤務しています。看護師はチームを組み、交代制でリーダーを務め、医師の指示に基づいて動きます。今後のためにも様々な経験をしているところです。皆さん人がよく、人間関係も良好で、働きやすいです。

◆ 以前の職場と比べて、患者さんの傾向などはありますか。

以前は専門の急性期、今は慢性期病院なので一概には言えませんが、仮設住宅で着きれなくなった、被災して家族が減ったなど、震災による社会的な影響が大きいと思います。一方で家族が近くにいる人は関係が強いと感じます。患者さんは高齢者の方がほとんどで、お看取りの方も多くいらっしゃいます。あとは施設に入ったり在宅に戻られたりする方など、退院後の患者さんの生活を見据えた看護が必要だと感じます。

◆ 釜石の医療・介護関係多職種にはどのような印象がありますか。

今は多職種との関わりはあまりありません。施設に入る患者さんも多いので、実際にどのような生活をされているのか、機会があれば見学してみたいです。

◆ 今後の展望について教えてください。

契約を1年更新し、平成27年度も釜石で働くことにしました。今後も節目ごとに考えたいと思っています。仕事だけでなく、ボランティアや地域の方々との交流を大事にし、また私がいることで釜石に遊びに来る友達もたくさんいますので、少しでもこの街のお役に立てるように頑張りたいと思います。

編集後記

3月は別れの季節と言いますが、東日本大震災後はより特別な意味を持つ月になってしまったように感じます。東北の長い冬が終わりに近づき、強風が一吹きするごとに暖くなるこの季節。ふきのとうの可愛い姿に心とむように、誰のものにも穏やかな気持ちの春が訪れますように。(N)

発行／在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375

✉ zaitaku@team-kamaishi.jp

ウェブサイト <http://teamkamaishi.ec-net.jp>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/teamkamaishi>